

第6回指宿枕崎線(指宿・枕崎間)の将来のあり方に関する検討会議

議事概要

日時：令和8年5月12日（火）10:00-12:00

場所 ホテル自治会館 403会議室

指宿枕崎線指宿駅から枕崎駅までの区間における将来のあり方を検討する「指宿枕崎線（指宿・枕崎間）の将来のあり方に関する検討会議」について、第6回検討会議を開催したところであり、その議事概要は以下のとおり。

1. 開会

2. 冒頭挨拶 【鹿児島県総合政策部参事兼交通政策課長】

3. 報告

令和8年度人事異動により委員の変更があったことを事務局より説明。

4. 議題

○ 令和8年度実証事業について

【貨客混載実証事業】

事務局から説明

- ・ 令和7年度に実施した貨客混載実証事業について、効果拡大を図るため、令和8年度は対象区間を鹿児島中央駅～枕崎駅に拡大。
- ・ 加えて貨客混載実証事業を広く周知するための広報活動やイベント等を実施。

【沿線3市が提案する実証事業】

令和8年度は沿線3市が主体となり、市民を巻き込むことを意識した実証事業を検討。各市からそれぞれ提案する実証事業について説明。

(指宿市)

- ・ 令和9年度から本格実施される関係人口創出施策を見据え、JR西大山駅で「指宿枕崎線ファンミーティング」の開催を検討している。
- ・ イベントは対面とWEBのハイブリッド形式とし、マルシェ、おもてなし活動、沿線清掃などファン主体の企画を実施する予定である。
- ・ 市民や鉄道ファンの交流機会を創出し、持続的なつながりの形成や指宿枕崎線の価値の再認識につなげることを目指す。
- ・ 本事業を通じて、令和9年度から始まる関係人口創出施策の基盤づくりを進める。

（南九州市）

- ・ 南九州市は指宿市と枕崎市の中間地に位置しており、指宿枕崎線は主に高校生の通学に利用されている。他の地域より人口減少が進んでいる旧穎娃町の活性化を図りたい。
- ・ 地域の商業地の中心に位置する西穎娃駅を拠点として、総務省の「ふるさとミライカレッジ実証事業」の採択を受けた。
- ・ 事業では「関係人口」「地域交流」「課題解決」を柱とし、あり方検討会議と連携しながら取組を進める。
- ・ 都市部の学生と地域住民が協働し、地域活性化につながる新たなアイディアの創出を目指す。

（枕崎市）

- ・ 名称としては鉄道がつなぐ人とまち活性化事業。指宿枕崎線の利用を基点とした来訪促進、地域経済の循環を生み出すことを目的としている。両市と同様、関係人口の創出を図ることを位置づけている。
- ・ 今後、ふるさと住民登録制度における担い手活動の一環として、沿線の環境美化活動への参加に対し、スマホアプリを活用した地域通貨を付与する仕組みを検討している。
- ・ 地域通貨は沿線自治体内の店舗で利用できる仕組みとし、地域住民との交流や食体験などへの活用を想定している。
- ・ ふるさと住民登録制度を見据えた事業として継続的に実施し、継続的な協力者の確保と活動基盤の構築を目指して、事業を通じて地域課題の解決と地域の担い手育成につなげていく。

（鹿児島県）

- ・ 3市の実証事業案は、市民を巻き込む観点で事業を進めていくということが共通している。
- ・ 3市からの提案というような取組は令和7年度はなかった。市民を巻き込むという観点で地域全体で理解を深めることは重要。
- ・ 今回示した貨客混載実証事業及び沿線3市が提案する実証事業の4つの案は現段階でアイディアとしたもの。今後、必要な実証事業のアイディアが出れば追加的に実施していくのが大前提である。

（神田教授）

- ・ 3市からの提案ということに意義がある。「指宿枕崎線」は、日本最南端など、オンリーワンの価値、個性を持っているため、今後はそれら

を積極的に発信することが重要ではないか。

- ・ そうすることによって、住民や地域外の人々へ地域のポテンシャルを伝えられるのではないか。
- ・ また、西大山駅や西瀬娃駅等、駅を拠点とした取組が進められており、鉄道のまちづくりへの役割にも着目すべきである。
- ・ 今後は、こうした取組が地域活性化にどのような効果をもたらしたかを検証していく必要がある。

(鹿児島県)

- ・ オンリーワンなど、地域の人たちが持つ思いにつながると思う。
- ・ 事業の振り返りは検討会議としてしっかりやっていかなければならない。しっかりと事後評価もしたい。

【令和7年度検討調査事業の結果について】

(EY ストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社（以下、EYSC）)

- ・ 令和7年度に受託した検討調査事業について概要を報告する。
- ・ まず、令和7年度に検討会メンバーや地域から挙がってきた各種施策について、効率性、効果、実現難易度の観点から分類し、関係者が具体的に施策を動かしていく上での方向性を整理しお示しした。
- ・ また、指宿枕崎線が有する社会・経済的価値の推計について検討会議に報告した。指宿枕崎線がもたらす社会・経済的価値を可視化するにあたっては、現在の社会・経済的価値と、将来増加・創出が見込まれる価値に分けて推計した。
- ・ 推計にあたっては、鉄道が存在することで、分野毎にどのような価値が生まれているかを整理した。
- ・ それらについて、統計値などの所与の数値である基準値と、指宿枕崎線を活用した地域活性化施策を実施していくことによって変動するパラメータ値に分けた推計式を検討することで定量化を試みた。
- ・ 当該結果は、あくまでも推計である点に留意が必要である。
- ・ 基準値については、元となる公表値や統計値が変動するものであり、これらデータが不足している場合には、合理的な仮定を置いて補正を行っている。
- ・ パラメータ値についても、令和7年度の実証事業の結果を一部活用したが、事業自体が小規模となり推計に活用するには不十分であったため、この点についても仮定に基づく補正を行っている。
- ・ 今回、検討会議に報告した推計結果は、あくまでも令和7年度受託業

務の中で入手可能な情報に基づいて仮定や補正をした上での推計値であり、この価値・この金額が客観的事実として存在することを保証するものではなく、また、将来必ずこの金額の価値が地域に発生することを保証するものではない点にご留意いただき、検討会議の責任の元で結果を活用されたい。

- ・ また、公表値や統計値・アンケート等を充実化されたり、色々な施策を展開したりすることにより、推計の精度は高まっていくと考えられるが、あくまで推計であって、絶対値ではない。
- ・ そのような中で、あえて定量化し、可視化する理由は、目指す将来像に向けて関係者間で議論を深めるためであり、検討会議メンバー共有の目標のような形で機能させることを企図して推計をご依頼頂いたものと理解している。
- ・ 以上の前提のもと、指宿枕崎線が有する社会・経済的価値について、金銭価値化できるもののみ、重複を排除しながら集計した推計し、皆様にご報告させて頂いた結果を資料 8 枚目に示している。
- ・ 特に資料の下段（価値の推計結果が現在から将来（長期）までに時系列に示されている）における、「現在」の箇所について、指宿枕崎線においては、地域全体でかかっている費用を上回る便益が生じている状態にあるのではないかとということが示唆される結果となっている。
- ・ 「将来」の箇所については、今後、将来に渡り長期的に関係者が一丸となって地域活性化施策を実施し続けるという仮定のもとで、将来発生・増加するであろうコストを上回る形で、社会・経済的価値が拡大し得る「潜在的可能性」が、地域に存在しているのではないかとということが示唆される結果となっている。
- ・ 今後はこのような潜在的価値について、地域全体として実現していくべき目標として念頭におきながら、継続的に令和 8 年度以降も議論を深めていくことが必要ではないか。
- ・ 資料 9 枚目は事業体制のあり方について整理結果を示している。指宿枕崎線が有する価値を最大化するために、沿線地域において持続的に取り組みを継続していくためには、全体の実行をマネジメントする、何かしらの事業体制を最終的に確立する必要がある。
- ・ ただし、このような組織の整備というのは、一足跳びに確立できるものではないため、令和 7 年度の検討調査事業においては、資料に記載しているような形で、まずはその要件を満たす体制を構築するための機能の面から初期的な論点整理を行ったものである。
- ・ 要件については、地域が一体となって、地域からの信頼性を有する組

組織であること、沿線地域という広いフィールドで、施策を一体的に講じていくために広域的な機動性を有する組織であることが必要と整理している。

- ・ また、持続可能な形としていくためには、地域経済循環の構築・発展に寄与するような社会性と、組織自体がしっかり自走し拡大に対応していくことの出来る経済性を併せ持つことが必要、と整理している。
- ・ こうした要件を満たしつつ、地域においてこのような組織が果たすべき機能や役割、そしてこの組織体・事業体制に関わる各主体がどのような役割をもって、どのように連携していくのか、そして最適な形態はどのようなものか、さらに、組織の設立にはどうしても費用がかかるため、それをどう手当していくか、最終的にその各主体がどのように責任やリスクを分担していくべきか、こういった点を継続的に議論していく必要があると整理している。
- ・ 令和7年度の実証事業は、指宿枕崎線を地域資源と結びつけて、その社会・経済的価値の最大化を図っていくという目的に向けて非常に良いスタートとなった理解だが、目指すゴールに向けては、令和8年度以降、様々な観点で取組の強化が必要ではないかと考えている。
- ・ このような取組に対して、住民が関心を持って参画するということがより重要でもあるため、年間を通じてより戦略的に取組を実行していくため、全体マネジメント機能の面からも事業体制のあり方の検討を深めていく必要があると考えている。

5. 意見交換

(九州旅客鉄道株式会社)

- ・ 貨客混載実証事業については、令和7年度と比較して区間を拡大し、枕崎駅から鹿児島中央駅までの荷物輸送が可能となっている。沿線自治体の皆様には情報を発信していただき、さらに現地事業者から便利な取組という意見があがってくることを期待したい。
- ・ サイクルトレイン実証事業については、夏頃の運行開始を予定している。令和8年度は定期列車を活用する。比較的ニーズが高くなる土日で時間を絞って列車の設定を検討している。沿線自治体の皆さまのお力も借りながら発信していきたい。
- ・ そのほか、副駅名実証事業については、当社で実施しているネーミングライツという取組の運用を少し変更し、現地事業者の手が上がりやすい仕組みの構築を検討している。

（オブザーバー：九州運輸局）

- ・ 令和7年度に活用いただいたのが、地域公共交通確保維持改善事業費補助金の中の地域公共交通再構築調査事業というもの。活用いただく条件はこの協議会（検討会議）で合意形成である。先ほど、説明のあった沿線3市から提案のあった実証事業については、まさに住民を巻き込む観点で、検討会議で合意形成を図って立てられた計画だと考えられるため、国としても、早く計画内容を詰めていただき、ぜひ当該補助金を活用いただきたい。
- ・ 補助金のスケジュールが年度で区切られているため、早く着手されたい。実施予定の実証事業等についても早めに情報共有されたい。
- ・ 貨客混載実証事業は、交付済である。対象区間拡大ということなので、大変期待している。
- ・ すべての実証事業、検討調査事業にいえるが、指宿枕崎線の利用者だけでなく、沿線の業者等にとって指宿枕崎線が身近にあって、自分たちの商売に繋がっている、自分たちの生活に欠かせないものであるということを住民に知ってもらうために情報発信することが大事だと思っている。
- ・ ぜひ実証事業の結果を広く発信し、今後の取組の持続につながるような情報発信を留意いただきたい。

（鹿児島県）

- ・ 我々検討会議として、地域の方々にこの活動内容を知っていただく必要があると考えているため、座談会など地域と関わりを持つ場において、情報発信に取り組む。

（九州旅客鉄道株式会社）

- ・ 令和8年度は地域を巻き込むことが非常に重要だと思っている。今回、沿線3市からそれぞれ実証事業が提案された。ぜひ実施に向けて動いていくことを期待したい。鉄道事業者としてもできることは最大限協力させていただく。

（鹿児島県）

- ・ この検討会議は事業者側とか行政側とかの立場を超えて、プレーヤーが一丸となって事業に取り組むということが、意義だと考えているため、九州旅客鉄道株式会社からのコメントは心強い。行政側としても

やるべきことはしっかりやっていく必要がある。

（神田教授）

- ・ 1 点目。令和 7 年度の検討調査事業の結果で社会・経済的価値の短期、中期、長期の推計結果があるが、資料に挙がっている指標の中で、人口減少に伴って減少するものと人口減少は関係ない指標があるのではないかと。また、観光面の効果やオンリーワンブランドについては、人口減少の影響はないのではないかと。
- ・ よって、今後、このような推計を行っていく際は、人口が 1 割減少した場合には、伴って 1 割減少するのではなく、感度を見ておいた方がいいのではないかと。
- ・ 2 点目。数字で表せる価値と表せない価値がある。お金に換算できないものなどは実証事業を実施しながら、どのような項目がお金に換算できない効果なのか等、定性的な効果についても整理し、把握しておくべきではないかと。

（鹿児島県）

- ・ 神田教授の意見については、令和 8 年度の検討調査事業で数値を精緻化していく中で取り込んでいければと思う。

（指宿市）

- ・ 地域をどう巻き込んで、関係人口を創出していくかが、一番重要。前向きに取り組んでいきたい。

（南九州市）

- ・ 神田先生がおっしゃった人口減少の予測についてなるほどと思った。当市での出生数は 1 年で 100 ちょっとという状況にまでなっている。現在、指宿枕崎線はほとんどが高校生利用である。そうなってくると 15 年後の鉄道利用者数も決まってくる。
- ・ よって、指宿枕崎線の利用者の先行きは減ってくるのは間違いない。しかし、事業者は残っていくと思われるため、貨客混載など、鉄道活用の広がりには将来的に考えていく必要がある。しかし、貨客混載については、事業者もイメージがわからない。事業者に主体性を持たせないで持続していかないので、インセンティブなどを与えるなどして、利用促進する取り組みも必要ではと思った。

（枕崎市）

- ・ 関係人口の創出に向けた取組を広域的に展開していくことが重要である。
- ・ 指宿枕崎線を中心とした取組を進め、地域活性化や担い手づくりにつなげる。
- ・ 継続的な関わりを持つ関係人口を増やし、地域と人とのつながりを強化する。
- ・ 取組成果を全国へ発信することで、広域連携による地域活性化モデルの構築を目指す。

（南薩地域振興局）

- ・ 地域を巻き込むという実証事業案は素晴らしい。県もこれまでいくつかの工夫をしてきたが、一過性で終わってしまうパターンが多い。地域を巻き込んで、地域が主体となって、枠組み、コンセプトを持つのであれば、それをどのように地域に根付かすのか。振興局としても協力できるところは協力したい。

（九州旅客鉄道株式会社）

- ・ 本検討会議は今年度で３年目を迎えることになるので、しっかり議論を進めていきたい。今回の検討調査事業の資料は、その議論の中でしっかりと活用していく。
- ・ 指宿枕崎線を含めた、ローカル線の実情は非常に厳しいのがトレンド。
- ・ 社会・経済的価値の定量化が図られ、その価値の受益者も明らかにされた。
- ・ EYSC が最後に提言されているとおり、議論をより深度化できればと思っている。

（鹿児島県）

- ・ １点目。令和７年度の検討調査事業で推計された価値自体は意義があると思う一方、仮定推計の状況のため、推計のための要素なども含め深掘りし、令和８年度も議論を深めていきたい。
- ・ ２点目。事業体制については、目標ではないが、理想的な形態を想定し、事業を継続していくための体制作りを行うことが大事ではないか。一番難しい部分ではあるが、逃げてはいけない話ではないか。

（神田教授）

- ・ 鉄道というインフラ、線路も駅も含め、様々な使い方ができるのではないか。せっかくあるインフラを有効活用するアイデアを柔軟に出せていければよい。令和8年度は基本的には貨客混載や3市からの提案のあった実証事業を軸に進めていくと思うが、それ以外にも途中でアイデアが出たときには、前向きに考えることができればよい。
- ・ 最終的に組織づくりをどうするかという問題はあるが、1年単位の実証事業では最終的にどこに行き着くのか不明ということがある。可能であれば、来年度以降も定着できる実証事業があってもよいのでは。
- ・ 貨客混載などは長く実施することにより、新たなユーザーがでてきたり、大手宅配業者のドライバー不足を解消する取組になったりしている。事業継続という観点から、長期的なことを見据えて実施するというのもあってもよいのではないか。

(オプザバー：九州運輸局)

- ・ 令和7年度の検討調査事業の社会・経済的価値の設計についての質問となるが、医療・福祉・子育て・教育の箇所、家族の送迎負担軽減や親の送迎負担軽減、自力で通学可能な学校が増えるという記載がある。この送迎負担ということは、国交省としても、非常に問題意識を持っているところ。この価値が将来的に増えていくという推計結果は、例えば送迎に使っていた時間を仕事等に転換できるという形で価値を算出していると思うが、その仮定を想定するためにどのような施策になるのか、教えていただきたい。

(EYSC)

- ・ パークアンドライドやサイクルポート等、鉄道に乗り換えてもらうような施策が考えられるのではないか。

(鹿児島県)

- ・ 本日の検討会議は令和8年度の実証事業の説明及び令和7年度の調査の報告と大きく2つであった。令和7年度の検討調査事業から推計された社会・経済的価値は一定の意義があるものであった。その上で、仮定推計ということや人口減少という話もあるので、引き続き令和8年度は、深掘りしていくことが必要。
- ・ また、価値についても定量的な部分に留まらず定性的な部分や言語化についても大事にしていくという議論があった。
- ・ 実証事業については、貨客混載は令和7年度から拡大して実施する。

沿線３市の提案は住民を巻き込んだアプローチというものが確認できた。検討会議としてプラスアルファの部分である。

- ・ 実証事業については、一過性にならず、自然に定着するということも意識しながら事業を進めていく必要があり、それが最終的には組織づくりや地域づくりに繋がる。
- ・ 実証事業や鉄道インフラの有効活用等、柔軟にアイデアを出せる環境も整える必要がある。
- ・ そのほか、九州旅客鉄道株式会社から事業者だけではローカル線は厳しいという話があった点について、検討会議での意見として触れておきたい。

以上